

Ⅲ 活動記録

1 展覧会

- ・出品リストについては、他館所蔵家作品のみ詳細を掲載した。
- ・所蔵先、及び講師の所属は開催当時のもの。

特別展 「開館 25 周年記念 清方、鎌倉に住まう。一晩年の作品を中心に」

太平洋戦争の終結を疎開先の御殿場(静岡)で迎えた清方は、東京には戻らず、温暖で穏やかな鎌倉に活動の場を求め、昭和 21 年(1946)の春に鎌倉の材木座に移り住んだ。文化勲章を受章した昭和 29 年(1954)、雪ノ下に居を構え、「市民の風懷に遊ぶ」と称して、文学に取材した作品や明治を追懐した作品など心の赴くままに制作した。

本特別展では、令和 5 年春に当館が開館 25 周年を迎えることを記念し、明治の東京の庶民生活を描いた《朝夕安居》や夏の女性のさわやかな装いに趣を感じて制作した《夏ざしき》など、清方晩年の 26 年間の画業を紹介した。



会期 令和 5 年 4 月 13 日(木)～5 月 17 日(水)
(開館日数:31 日)

総入館者数 1,907 人(一日平均:62 人)

関連事業

市民講座【開催期間】4 月 25 日(火)～29 日(土)

- 25 日(火)小林美香「清方の鎌倉暮らし」
- 26 日(水)今西彩子「秋の特別展の見どころ紹介 西田青坡と柿内青葉」
- 27 日(木)鏑木祐子「清方と児童文学」
- 28 日(金)篠原 聡「美人画の諸相」
- 29 日(土)今西彩子「秋の特別展の見どころ紹介 尾崎紅葉と泉鏡花」

関連記事

「特別展 開館二十五周年記念 清方、鎌倉に住まう。一晩年の作品を中心に」(広報かまくら 4 月号)
他 2 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
夏の武家屋敷	昭和 32 年	紙本着色・軸	56.8×55.3	(株)ヤマタネ蔵
夏ざしき	昭和 35 年	紙本着色・額	96.5×57.5	同上
筆捨松と広重	昭和 45 年	絹本着色・軸		川崎・砂子の里 資料館蔵
阿ちさいみの花	昭和 23 年	紙本着色・軸	36.5×42.8	サントリー美術館蔵
小品集(草花風景スケッチ色紙)	昭和 22 年	紙本着色・台紙 (二十一葉)	(各)25.0×18.5	同上

【所蔵品】

「白梅」「先師の面影」「雨華庵風流」「大蘇芳年」「朝夕安居」「朝夕安居(詞書)」「鍾馗」「絵燈籠」「喜寿」「干物」「鰯」「女役者条八」「風景(金沢・瀬戸)」

下絵 「春宵怨」「たけくらべ(つり忍)」「筆捨松と広重」「下町に灯のともる頃」「金魚屋」「女役者条八」「夏ざしき」

スケッチ 「志濱の筈」「御殿場からの富士」「一色 大樺 東庭」「銭洗弁天」「鎌倉」「由比ガ浜」「江の島」「鎌倉雪ノ下」「雪ノ下画室窓からのもみじ」「燕子花」「雪ノ下画室窓からの十五夜月」

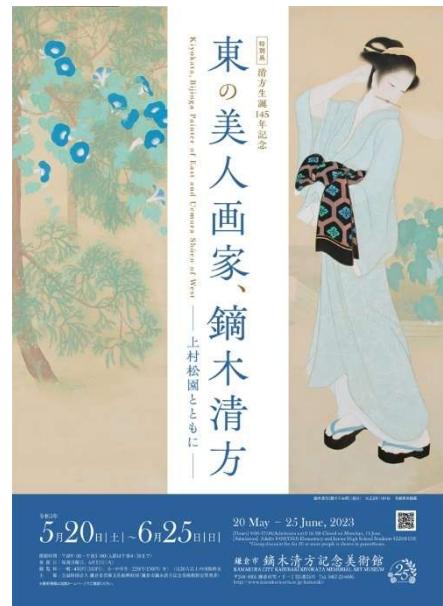
『文藝俱樂部』口絵	「そゞろあるき」「潮干狩」
『文藝界』口絵	「浴後」
『少女世界』口絵	「さつき花」
『今様夏の巻』口絵	「五月雨」
菊池幽芳著作口絵	『月魄 下巻 藤乃の巻』『百合子 後編』
谷崎潤一郎著作	『少年時代』挿絵、『少年』口絵
『泉鏡花選集』	表紙装丁、秩、扉
『紫陽花舎随筆』	挿絵 3 点
資料	「文化勲章」「文化勲章証」「紫陽花 浴衣地」

特別展 「清方生誕 145 年記念 東の美人画家、鏑木清方 ―上村松園とともに―」

令和 5 年に生誕 145 年を迎える清方は、明治から昭和にかけておよそ 70 年にわたり、東京画壇を代表する日本画家の一人として活躍した。若い頃は、挿絵の仕事で人物表現の腕を磨きながら、明治という新時代に即した日本画を模索。浮世絵の研究も重ねて、自然と人物が調和する表現を追求し、大正 4 年に《霽れゆく村雨》で文部省美術展覧会の最高賞を受賞するまでになった。その後も理想の女性美を追い求め、粹で艶のある優美な女性像を生涯描き続けた。

令和 4 年には没後 50 年を記念した大回顧展が開催され、《築地明石町》(昭和 2 年)を含む三幅の重要文化財への指定が発表されるなど、改めて清方の美人画が注目されている。

本特別展は、《露の干ぬ間》(大正 5 年)など、美人画家としての地歩を固めた大正期の江戸情緒豊かな作品を中心に、「東の清方、西の松園」と並び称された京都画壇の上村松園の作品も交えて、魅力あふれる近代美人画の世界を紹介した。



会期 令和 5 年 5 月 20 日(土)～6 月 25 日(日)

(開館日数:31 日)

総入館者数 2,666 人(一日平均:86 人)

関連事業

美術講演会「くらべて深まる美人画の世界」

【講師】田所泰氏(実践女子大学香雪記念資料館学芸員)

【開催日】6 月 13 日(火)

日本画ワークショップ「岩絵具を使って、日本画を描いてみよう！」

【開催日】6 月 18 日(日)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和 5 年 5 月 13 日(土)～令和 6 年 3 月 31 日(日)

関連記事

「清方生誕 145 年記念「東の美人画家、鏑木清方 ―上村松園とともに―」(地域創造レター No.337)

「清方生誕 145 年記念 東の美人画家、鏑木清方 ―上村松園とともに―」(博物館研究 vol.58 No.6)

他 6 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
鐫木清方「露の干ぬ間」	大正 5 年	絹本着色・屏風 (六曲一双)	(各) 169.2×363.0	名都美術館蔵
鐫木清方「白雨」	昭和 8 年	絹本着色・軸	129.6×42.3	同上
鐫木清方「洋燈(ランプ)」	昭和 22 年	絹本着色・軸	62.5×71.0	同上
上村松園「藝妓之図」	大正初期	絹本着色・軸	131.3×35.8	同上
上村松園「わか葉」	昭和 15 年	絹本着色・額	70.2×87.0	同上

【所蔵品】

「山百合」「襟おしろい」「あじさい」「芸妓」「浅みどり」「濡衣」※初公開「金沢絵日記」「金沢絵日記(五)」
 下絵 「明治の女」「卯月の宵」「お蝶夫人」「紫陽花の谷」「郵便汽船三菱会社為替局明治風景」
 小下絵 「霽れゆく村雨」「黒髪」
 スケッチ 「芸妓」(2 点)
 模写 勝川春章「婦女風俗十二ヶ月 六月 行水図」狩野長信「花下遊楽図屏風」

『清方美人畫譜』 「島田くづし」「白壁」
 『鐫木清方繪入本 御濠端』 「歌妓三態」
 『文藝俱樂部』口絵 「小春」「いで湯の夕べ」「ひともし頃」「爪紅」「梅雨晴」
 『文藝俱樂部』口絵下絵 「小春」
 『講談雑誌』口絵 「菖蒲湯(清方畫譜の五)」
 『新演藝』口絵 「濡衣(芝居十二ヶ月)」
 『婦人世界』口絵 「春霞巾を着けた女」「植物園の池」「新夫人」
 『婦女界』口絵 「虹」
 『淑女畫報』口絵 「若葉の香」
 『女子文壇 たちばな月』口絵 「若葉」
 『国民新聞』附録 「春装」
 『大阪毎日新聞』附録 「紫陽花咲く頃」
 菊池幽芳著作口絵 『百合子 中編』『お夏文代 前編』『賣花娘』『宝庫探検秘中の秘 前編』
 江見水蔭著作口絵 『霧姫 前編』『海底の噴火』
 渡邊霞亭著作口絵 『渦巻 上編』
 松居松葉著作口絵 『一夜画工』
 稲岡奴之助著作口絵 『花山花人』
 山田美妙著作口絵 『桃色絹』
 中村春雨著作口絵 『無花果』
 絵葉書 「郵便汽船三菱会社為替局創業時代」
 資料 「紫陽花団扇」
 「日本の女性松園」(『婦人画報』記事)

企画展「大佛次郎没後 50 年 季節の彩り ―清方が描いた美人挿絵―」

戦後、清方が鎌倉に移り住んでから最初にとりかかった仕事のひとつに雑誌『苦楽』の表紙絵制作がある。

『苦楽』は同じく鎌倉に住んでいた作家・大佛次郎(1897-1973)が創刊・主宰した文芸雑誌で、「社会人の文学の洗練と円熟」を旨として豪華な執筆陣や画家を迎え、昭和 21 年に創刊された。

大佛から強い要望をうけ、清方は創刊号から表紙絵を担当し、昭和 24 年 8 月号まで四季折々の風俗に取材した美人画を描いた。また、雑誌の呼び物であった「名作絵物語」にも作品を提供した。これらの仕事にやりがいを感じていた清方は、亡くなるまで『苦楽』を手元に置いていた。

本企画展では、雑誌『苦楽』と表紙絵の下絵を中心に、季節の風情豊かな作品や口絵を展示し、清方と大佛次郎の関わりを紹介した。



会期 〈前期〉令和 5 年 7 月 1 日(土)～8 月 6 日(日)
〈後期〉令和 5 年 8 月 10 日(木)～9 月 10 日(日)
(開館日数:60 日)

総入館者数 2,775 人(一日平均:46 人)

関連事業

「夏休み親子観賞」小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布

【開催期間】7 月 1 日(土)～9 月 10 日(日)

小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布

「子どもたちが美術館で楽しく過ごすための動画」上映

【開催期間】7 月 1 日(土)～8 月 31 日(木)

鍋木清方と大佛次郎ゆかりの地を巡る鎌倉ガイドツアー 【開催日】7 月 9 日(日)

大佛次郎記念館との相互割引 【開催期間】7 月 1 日(土)～10 月 18 日(水)

親子ワークショップ「親子で美術館へ行ってみよう！」【開催日】7 月 26 日(水)

「着物で楽しむ美術館」

【開催期間】7 月 1 日(土)～9 月 10 日(日)

着物で来館された方を対象に入館料を割引

日本画ワークショップ「日本画材を使って、うちわに絵を描こう！」

【開催日】7 月 16 日(日)

夏休み子ども参加プログラム・日本画「日本画材を使って、絵巻物を描こう！」

【開催日】7 月 27 日(木)、28 日(金)

夏休み子ども参加プログラム・石版画「石版画の仕組みを体験してみよう！」

【講師】稲田大祐氏(相模女子大学教授)

【開催日】8 月 3 日(木)、4 日(金)

「鍋木清方誕生日記念イベント」

【開催期間】8 月 29 日(火)～9 月 3 日(日)

先着 10 名様に一筆箋をプレゼント

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和5年5月13日(土)～令和6年3月31日(日)

関連記事

「季節の彩り ―清方が描いた美人挿絵―」(8月10日 朝日新聞神奈川マリオン)

「鏑木清方記念美術館企画展 大佛次郎没後50年 季節の彩り ―清方が描いた美人挿絵―」

(7月1日 全国銘菓広報誌 あじわい) 他6件

出品作品(前期のみ)

「柳の下に涼む娘」「夏すかた」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「ゆかた」「寫生」「ゆあみ」「夕立雲」

「手賀沼」(当館寄託)

下絵 「夏の女客」「棧敷の客」「紅雨荘(右隻)」「鯛」「のれん(夏姿)」「日高川 道成寺」

小下絵 「七夕(左隻)」

スケッチ 「向日葵」「トロロアオイ、朝顔、露草」「玉蜀黍」「白粉花」

口絵等 「秋の旅」(『婦人画報』口絵)

他 「清方・筆 組地扇面描絵柄江戸棲」

出品作品(後期のみ)

「清流」「桜もみぢ」「菊慈童」「龍膽」「ほゝづき」「曲亭馬琴」

「秋草」(当館寄託)

下絵 「菊花節」「瀧野川観楓」「初冬の花」「河沿の家」「五人女のおまん」

スケッチ 「竜胆」「菊」「木槿」

口絵等 「夕涼み」(『文藝界』口絵) 小杉天外著『落花帖 下巻』口絵

出品作品(前後期)

「夏の思い出」※前後期で場面替「にぎりえ」

『文藝俱樂部』口絵 「ゆふ暮」「あさ露」「蚊遣の煙」

『新小説』口絵 「空虚」

『講談雑誌』口絵 「盆提灯(清方畫譜の七)」「恋の湊(清方畫譜の八)」

『婦人画報』口絵 「秋の旅」

『苦楽』表紙 「花野」「宇治の蜩」「道成寺」「きさらぎ」「彌生」「舞妓」「花菖蒲」「あまのがは」

「湯の宿」「神田祭」「菊」「錦繡の秋」「雪」「松の内」「王子詣」「春雨」「西鶴のお七」

「紅梅屋敷」「堀川波の鼓」「草枕」「高尾ざんげ」「たけくらべ」「田舎源氏」「高野聖」

『苦楽』表紙下絵 「宇治の蜩」「神田祭」

『苦楽』名作絵物語 「金色夜叉」「日本橋」

「東京 築地川」 「亀井橋」「佃島」「氷店」

渡邊霞亭著作口絵 『新渦巻 光子の巻』

江見水蔭著作口絵 『海水浴』

大沢天仙著作口絵 『善道邪道』

柳川春葉著作口絵 『母の心』

他 「清方・筆 うちわ・美人 のれん」「清方・筆 扇子 朝顔」「清方・筆 扇子 芙蓉」

「清方・意匠 うちわ・美人 日傘」「清方・意匠 うちわ・美人 露草」

「清方・意匠 風呂敷 朝顔」「清方・意匠 扇子 凌霄花に蜻蛉」

特別展「清方×文学 ―紅葉への憧憬、鏡花との友情―

清方芸術の魅力の一つに、文学作品をもとに情緒豊かに描かれた物語絵がある。

挿絵画家として歩み始めた頃、尾崎紅葉とその高弟・泉鏡花に出会い、人気と実力を兼ね備えた彼らの小説に絵を描くことにより清方の知名度も高まっていった。さらに、尾崎紅葉らにより結成され、明治20～30年代の文壇で主流をしいた硯友社の同人たちへの小説へも数々の口絵や挿絵を寄せた。この頃に培った文学的素養は、清方の創作活動の礎となり、晩年まで文学に取材した作品を多く生んだ。

泉鏡花生誕150年、尾崎紅葉没後120年にあたる令和5年の本特別展で、清方と硯友社などの文学者との関わりについて、日本画や挿絵をはじめ、交流を示す多彩な資料を交えて紹介した。



会期 令和5年9月14日(木)～10月18日(水)

(開館日数:31日)

総入館者数 1,752人(一日平均:57人)

関連事業

日本画ワークショップ「絵絹に日本画材を使って、絵を描こう！」

【開催日】9月24日(日)

日本画制作実演(実演:日本画家 只野彩佳氏)

【開催日】10月14日(土)、15日(日)

大佛次郎記念館との相互割引

【開催期間】7月1日(土)～10月18日(水)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和5年5月13日(土)～令和6年3月31日(日)

関連記事

「特別展「清方×文学 ―紅葉への憧憬、鏡花との友情―」(鎌倉 TODAY)

「特別展 清方×文学 ―紅葉への憧憬、鏡花との友情―」(鎌倉観光公式ガイド)

「特別展 清方×文学 ―紅葉への憧憬、鏡花との友情―」(広報かまくら 9月号)

「清方×文学 ―紅葉への憧憬、鏡花との友情―」(9月1日 鎌倉朝日)

「特別展「清方×文学 ―紅葉への憧憬、鏡花との友情―」(子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
『苦楽』挿絵原画 名作絵物語「金色夜叉」	昭和 22 年	紙本着色・画帖 (8 面)	(各) 26.8×21.0	東京国立近代 美術館蔵
『苦楽』挿絵原画 名作絵物語「日本橋」	昭和 23 年	紙本着色・画帖 (8 面)	(各) 27.6×21.4	同上
晩涼	大正 9 年	絹本着色・軸	170.6×72.1	同上
水野年方作口絵 泉鏡花著「外科室」(『文藝倶楽部』第 1 巻第 6 号)※水野年方旧蔵	明治 28 年	木版口絵・額	23.7×29.2	個人蔵
水野年方作口絵 泉鏡花著『黒百合』※水野年方旧蔵	明治 35 年	木版口絵・額		個人蔵

【所蔵品】

「寒月」「暮れゆく沼」「金色夜叉の絵看板」「深沙大王」「一葉女史の墓」「注文帖」「布晒し」「美人と芍薬」
「秋の花」

下絵 「玄宗皇帝」「小説家と挿絵画家」「高野聖(今様絵詞の会)」「柿と童」

尾崎紅葉筆 「夢裏の雛妓」画讃

泉鏡花・小栗風葉筆 「紅葉祭記念葉書 句」

尾崎紅葉著作関連 『金色夜叉 続編』(口絵・校合摺) 『尾崎紅葉全集』(口絵・表紙装丁)

「鳴沢宮の像」(『婦人倶楽部』附録口絵) 『心中船』口絵 『合本金色夜叉』口絵

尾崎紅葉原著 『金色夜叉絵巻』(木版口絵・口絵下絵・箱装丁・第 1 図挿絵・第 1 図挿絵下絵及び
添付の書)

溝口白羊作詞『家庭新詩・金色夜叉の詩』口絵

泉鏡花著作関連 『三枚續』(口絵・口絵下絵・表紙絵) 『無憂樹』(口絵・口絵下絵) 『戀女房』(口絵)

『神鑿』(口絵) 『式部小路』(石版差上げ) 「さゝ蟹」(『田毎かゞみ』口絵)

『薄紅梅』(口絵) 『婦系図 後編』(鰭崎英朋合作口絵)

「胡蝶之曲」(『新小説』口絵・口絵下絵) 「起誓文」(『新小説』口絵)

「舞の袖」(『新小説』口絵) 「瓔珞品」(『新小説』口絵) 「楊柳歌」(『新小説』口絵)

「色暦」(『新小説』口絵・口絵下絵) 「紅雪録」(『新小説』口絵・口絵下絵)

「高野聖」(『現代名作集 別巻』口絵原画)

山岸荷葉著作口絵 「夢裏の雛妓」(荷葉著「紅筆」『新著月刊』) 『反魂記』(口絵・表紙装丁)

山田美妙著作口絵 『桃色絹』『人鬼』

江見水蔭著作口絵 『二人女王』『花』(口絵・表紙絵)

泉斜汀著作口絵 『松葉家乃娘』

資料 「永眠4ヶ月前の紅葉先生」(『草茂美地』口絵写真)

「泉鏡花 肖像写真」※清方旧蔵

特別展 「清方と弟子たち 一師弟で目指した芸術」

浮世絵の系譜をひく清方の門弟には、昭和の女性の佇まいを好んで描いた伊東深水や、自身が暮らした阪神の女性美を表現した寺島紫明ら、現代でも広く知られている多彩な才能の画家たちがいる。近年は柿内青葉や西田青坡の画業が新たに紐解かれ、清方の一門が再注目されている。

清方は挿絵画家として活動し始めた頃から後進を育て、やがて画塾をつくり、大正4年(1915)からは弟子たちの作品発表の場として「郷土会展覧会」を開催した。画塾の自由闊達な雰囲気の中、各々の芸術的個性と画才を伸ばした門弟たちは、やがて浮世絵画派を意識し、社会風俗に広く取材した制作活動や、人物画研究などにも取り組み、昭和の画壇で幅広く活動した。

本特別展では、それぞれの師風を受け継いだ弟子たちの作品を、清方の作品と共に紹介した。



会期 令和5年10月21日(土)～11月26日(日)

(開館日数:31日)

総入館者数 2,132人(一日平均:69人)

関連事業

日本画ワークショップ「胡粉を使って、日本画を描いてみよう！」

【開催日】10月29日(日)

美術講演会「清方からうけつぐ細緻流麗 一山川秀峰の画業と生涯」

【講師】吉井大門氏(横浜市歴史博物館学芸員)

【開催日】11月14日(火)

特別展示解説「芸術の秋&いい夫婦の日！展示解説ツアー」(鎌倉市川喜多映画記念館との連携事業)

【開催日】11月16日(木)、22日(金)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和5年5月13日(土)～令和6年3月31日(日)

関連記事

「清方と弟子たち 一師弟で目指した芸術」(8月10日 朝日新聞(夕刊))

他9件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
鐫木清方「色の湊」	大正5年	絹本着色・軸	142.0×51.0	木原文庫蔵
鐫木清方「翠影」	大正12年頃	絹本着色・軸	136.0×50.0	培広庵コレクション
西田青坡「廻覧板」	昭和16年	絹本着色・軸	161.0×73.0	昭和館蔵
伊東深水「薄暮」	昭和15年頃	絹本着色・軸	137.0×36.0	培広庵コレクション
寺島紫明「湯上り」	昭和20年代	絹本着色・軸	56.0×63.0	同上
山川秀峰「素踊」	昭和6年	絹本着色・額	167.0×122.0	同上
			(二曲一隻)	

勝田哲「雨」	昭和 40 年代	絹本著色・額	62.0×43.0	同上
西田青坡「廻覧板」スケッチ	昭和 16 年	鉛筆・スケッチ帳	37.1×29.0	個人蔵
西田青坡「新川河岸」スケッチ	大正 5 年頃	鉛筆淡彩・スケッチ帳	36.3×27.1	同上
西田青坡「清方先生出品画を描く」スケッチ	明治 43 年	鉛筆淡彩・スケッチ帳	13.7×36.3	同上
西田青坡「女性像」スケッチ	不詳	鉛筆・墨・スケッチ帳	28.0×18.0	同上
西田青坡「勝川春章作《婦女風俗十二ヶ月図》のうち《七月 七夕》」模写	大正 15 年頃	鉛筆淡彩・スケッチ帳	55.0×18.4	同上
西田青坡「鏑木清方作《西鶴五人女 おさん》」模写	明治 44 年頃	鉛筆・スケッチ帳	13.6×34.0	同上
西田青坡「伊東深水(一君)」スケッチ	明治末	鉛筆・スケッチ帳	51.2×18.4	同上
伊東深水「風景」スケッチ ※西田青坡のスケッチ帳	明治末	鉛筆・スケッチ帳	13.6×34.0	同上
山川秀峰「妓生 鄭錦蘭」	昭和 14～15 年	木版摺	37.5×24.8	同上
山川秀峰「踊五十番のうち《五郎》」	昭和 12 年	木版摺	39.0×26.8	同上
山川秀峰「現代婦女図」	昭和 13 年	木版摺	32.2×21.5	同上
山川秀峰「版画舞踊十種(羽根の禿、道成寺、おくみ、京人形、紅葉狩、道行きのおかる、藤娘 お七、鷺娘、手習子)」	昭和 10 年代	木版摺・ポチ袋	(各)15.7×6.2	同上
山川秀峰「童謡集 其一(かげろう、御殿様、お星さま、時雨、小雪)」	昭和 10 年代	木版摺・ポチ袋	(各)15.8×6.3	同上
山川秀峰「童謡集 其二(かくれんぼ、紙人形、ひざゝかり、想い、小雨)」	昭和 10 年代	木版摺・ポチ袋	(各)15.8×6.3	同上

【所蔵品】

鏑木清方「朝涼」「水汲」「夕立雲」「大和路の或る家」「栗むく娘」「美人図」

西田青坡「美人図」 山川秀峰「春駒」「美人図」「松貝描絵柄帯」 小早川清「美人図」

柿内青葉「五星連珠のうち」 笠松紫浪「井の頭」

下絵 伊東深水「清方先生寿像」

スケッチ 鏑木清方「雨夜の星」「朝涼」(2 点)「《三遊亭圓朝像》のためのスケッチ」

模写 鏑木清方「勝川春章作《婦女風俗十二ヶ月図》のうち《七月 七夕》」

『講談雑誌』口絵 鏑木清方「旅愁(清方畫譜の十)」「朝寒(清方畫譜の十一)」

伊東深水「秋の女(深水畫譜の十一)」「ふくる宵」「螢」「夜の楽屋」

寺島紫明「灯影」「有明」「化粧」 山川秀峰「宵」 西田青坡「栈敷」

『文藝俱樂部』口絵 鏑木清方「こほろぎ」「夜長」「こすもす」「八幡鐘」

その他 鏑木清方・小早川清他意匠 器 「宝珠」

資料 鏑木清方「西鶴五人女 おさん」

西田青坡「新川河岸」絵葉書*

写真(「清方夫妻金婚式の集い*」「象外面塾集合写真」「伊東深水《清方先生寿像》のためのスケッチ(3 点)」「象外面塾の新年会(5 点)*」

松田青風『歌舞伎のかつら』(改訂版)

櫻井霞洞作「藤瀬染」写真(『續こしかたの記』挿図)

*西田青坡コレクション

企画展「春を待つ ―清方が描いた新春―」

大正から昭和にかけ近代化が進んだ東京では、伝統的な季節の風習は徐々に忘れられつつあった。それでも昭和の初めころまでは、正月に晴れ着姿で髪を島田に結った女性や新春の寿ぎを唄い踊る萬歳の姿がみられたという。

江戸から続く風習や季節の行事を大切にしていた清方は、新年を迎えると氏神や七福神へ詣でたり、弟子たちと新年会を開いて宝珠の寄せ描きをするなど新春の吉例を楽しんだ。そして、松飾を外し、七草粥を食べて正月気分も落ち着く頃には、日常に戻ることに寂しさを覚えつつも春が来るのを心待ちにしていた。

本企画展では、清方が新春の風情に取材した作品や口絵、雑誌の正月号の付録となった双六などを紹介。押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」も展示した。

会期 令和5年12月2日(土)～令和5年1月8日(月・祝)
(開館日数:28日)

総入館者数 1,656人(一日平均:59人)

関連事業

「北鎌倉・鎌倉 ミュージアム散策 ―現代から鎌倉時代にタイムトラベル―」
(北鎌倉葉祥明美術館・鎌倉歴史文化交流館との連携イベント)

【開催日】12月2日(土)

日本画ワークショップ「日本画材でかるたに絵を描いてみよう！」

【開催日】12月17日(日)

「新春福引き」「新春初売り」

【開催期間】1月4日(木)～1月8日(月・祝)

来館者全員に景品が当たる福引きと、叢書図録と一筆箋の特別価格での販売を実施

「鎌倉・葉山 近代日本画家の旧居跡めぐり」

【開催期間】1月4日(木)～2月26日(月)

山口蓬春記念館との連携事業

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和5年5月13日(土)～令和6年3月31日(日)

関連記事

「春を待つ ―清方が描いた新春―」(博物館研究 vol.58 No.12)

他5件



出品作品

「ためさるゝ日(右幅)」「雪空」「秋宵」「歳旦」「松のうち」「白梅」「風景(里)」「早見の藤太」「小槌」「宝珠」
 鏑木照「枕獅子」
 下絵 「雪粉々」
 スケッチ 「万年橋からの雪景色」「積雪の庭木」「初日の出」「雪の松 矢来にて」「七草」「瑞泉寺の橙」
 「芸者」

『清方美人畫譜』 「幕間」
 『文藝俱樂部』口絵 「春を待つ」「餅むしろ」
 『文藝界』口絵 「都大路」
 『婦人世界』口絵 「元日の朝」
 『婦人公論』口絵 「歌留多會の夜」
 『婦人画報』口絵 「朝晴雪」「雪の兎」
 『婦人之友』表紙 第32巻第1号、第32巻12号、第36巻第1号
 『講談雑誌』口絵 「初夢(清方畫譜の一)」「嬌音(清方畫譜の二)」
 『新小説』口絵 「幕あひ」
 『少女界』口絵 「クリスマス」
 『少年界』口絵 「クリスマス」
 『少女俱樂部』表紙 「クリスマス」
 渡辺霞亭著作口絵 『渦巻』(続編)
 岡鬼太郎著作口絵 『三筋の綾 花柳風俗』
 表紙絵 橋本埋木庵著『歌吉心中』 稲岡奴之助著『貴公子 前編』
 村上浪六著『武士道 後編』
 その他口絵 「雪積む宵(名畫十二ヶ月その二)」「楽しき贈り物」
 『文藝俱樂部』附録 「軍国をんな雙六」「時代美人風俗雙六」「新案雙六当世二筋道」
 鰭崎英朋・鏑木清方合作新年大附録『松の内』
 東京朝日新聞附録 「風俗美人画(一)松の内」
 風呂敷 「凧と梅」「扇面に松と飴や」「扇面に藤と松」「扇面に梅と竹」「藤と松」
 ふくさ 「清方・筆 振り振り 大ふくさ」
 扇子 「清方・筆 金扇子 松」※初公開 「清方・筆 金扇子 梅」※初公開
 資料 永井周山作・押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」
 吉田永光作・押絵羽子板「春の夜のうらみ」
 押絵羽子板「ためさるゝ日」
 「清方意匠 年賀状」
 清方文章「かきぞめ」掲載『婦人之友』

企画展「早春の風情 ～清方のことばとともに～」

四季折々の情趣を作品に描いた清方は、一月から二月にかけての寒さが厳しい頃にも、早咲きの菜の花や紫陽花の小さな芽などに春の兆しを見つけ、その趣を楽しんだ。

明治から昭和にかけ急速に近代化が進み、人々の暮らしや町並みは大きく変わった。清方は、時代とともに失われつつある季節の風物や風景を、絵筆だけでなく随筆でもかき残した。清方にとり文章をつづることは、もう一つの大切な表現手段だった。

本企画展では、春の訪れを告げる早春の風情を描いた作品を、名文家としても知られる清方のことばとともに紹介した。



会期 令和6年1月13日(土)～2月27日(火)

(開館日数:39日)

総入館者数 2,227人(一日平均:58人)

関連事業

初心者向け展示解説「日本画鑑賞 はじめの一步」

【開催日】2月12日(月・振)、23日(祝)

「鎌倉・葉山 近代日本画家の旧居跡めぐり」

【開催期間】1月4日(木)～2月26日(月)

山口蓬春記念館との連携事業

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和5年5月13日(土)～令和6年3月31日(日)

関連記事

「企画展「早春の風情 ―清方のことばとともに」(1月1日 鎌倉朝日)」

「企画展「早春の風情」(1月25日 朝日新聞(夕刊) 神奈川マリオン)」

「早春の風情 ―清方のことばとともに」(博物館研究 vol.59 No.1)」

「企画展「早春の風情 ～清方のことばとともに」(鎌倉 TODAY)」

「企画展「早春の風情 ～清方のことばとともに～」(鎌倉観光公式ガイド)」

「早春の風情 ～清方のことばとともに～」(鎌倉逍遥 1-2月号 vol.56)」

「早春の風情 ～清方のことばとともに」(広報かまくら 2月号)」

「早春の風情 ―清方のことばとともに」(2月1日 鎌倉朝日)」

「企画展 早春の風情 清方のことばとともに」(子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」)」

出品作品

「早春」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「新大橋之景」「梅蘭芳 天女散華」「カルメン」「道成寺」「笠の曲(娘道成寺)」
「春の立場茶屋(金沢春景)」「崔承喜(一)」「崔承喜(二)」「白梅」(昭和期)「道行浮埒鷗」

短冊 「白梅」「母子」「童」

下絵 「春雪」「たておやま」「いでゆの春」「江戸風俗」「春 明治風俗(未定稿)」「木下川探梅」
「南葛飾早春」「氷梅(ふくさ下絵)」

スケッチ 「ふきのとう」「菜の花・桃」「遠州桜ヶ池」「奈良でのスケッチ」「小田原天神山早春」
「伊豆葛城山」「大森町」「武州金沢のあさり」「梅」「《早春》のためのスケッチ」「新大橋」
「牡丹の寺」「雑司ヶ谷」「竹箒に蔭の臺」「沈丁花」

小栗風葉著作口絵 『新かつら下地』

広津柳浪著作口絵 『絵師の恋』

渡邊霞亭著作口絵 『勝鬨 中編』

『清方美人畫譜』 「春のいでゆ」

『文藝俱樂部』口絵 「緋桃」「白魚」「雛壇の下」

『新小説』口絵 「瑞香(百花百姿)」「虎の門 見立十二姿の内」

『講談雑誌』口絵 「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」

『婦人画報』口絵 「暗香」

『婦人世界』口絵 「春霞巾を着けた女」

『女学世界』口絵 「紅梅」

『婦女界』口絵 「李の花」

『少女世界』口絵 「にほひ菫(下絵)」

『大正婦人』口絵 「初東風」「初東風(下絵)」

『国民新聞』附録 「春装」

その他挿絵 「探春」

ふくさ 「氷梅 清方意匠妻百日祭志ふくさ」

鏑木清方著作書籍 小村雪岱装丁『銀砂子』『連翹』表紙装丁 『蘆の芽』挿絵(今井橋早春の不二)
『褪春記』(限定版)扉 『褪春記』扉・序文・箱装丁
山田肇編『紫陽花舎随筆』箱装丁・扉
『こしかたの記』文庫版 『続こしかたの記』文庫版
山田肇編『随筆集 明治の東京』文庫版 山田肇選『紫陽花舎随筆』文庫版

企画展 「子どもへのまなざし ～清方が描いた子どもたち～」

大正から昭和にかけ日本画壇で活躍した清方。その画業の始まりは挿絵だった。16歳で挿絵画家となり、25歳の時に実力派の挿絵画家が活躍する雑誌『文藝倶楽部』に初めて口絵を寄せ、人気挿絵画家の仲間入りを果たすと、大正のはじめまで様々な雑誌で口絵や挿絵を描いた。

同じ頃、出版界では子ども向けの雑誌が次々と創刊され、児童文学が花開く。教訓話や世界のお伽噺に日本画家の武内桂舟や梶田半古らが挿絵を描き、清方も表紙絵や口絵、挿絵をはじめ、付録の双六なども描いた。その数はかなり多く、清方の知られざる画業と言える。

本企画展では、清方が描いた子どもに焦点を当て、子どものいる情景を描いた作品とともに子ども向け雑誌の口絵などを展示し、清方の挿絵画家としての新たな一面、子どもへのまなざしを紹介した。



会期 令和6年3月2日(土)～4月16日(火)

(開館日数:39日)

総入館者数 2,267人(一日平均:58人)

関連事業

「春休み親子鑑賞」

【開催期間】3月26日(火)～4月4日(木)

小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布

日本画ワークショップ「浮世絵の多色摺り技法を体験してみよう！」

【開催日】4月1日(土)、2日(日)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和5年5月13日(土)～令和6年3月31日(日)

関連記事

「企画展「子どもへのまなざし ～清方が描いた子どもたち～」(子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」)

「企画展「子どもへのまなざし ～清方が描いた子どもたち～」(鎌倉観光公式ガイド)

「企画展「子どもへのまなざし ～清方が描いた子どもたち～」(鎌倉 TODAY)

「鎌倉市 鎌倉清方記念美術館 子どもへのまなざし ～清方が描いた子どもたち～」

(2月20日美じょん新報第279号)

「企画展 子どもへのまなざし ～清方が描いた子どもたち～」(2月29日 朝日新聞 神奈川マリオン)

「子どもへのまなざし ～清方が描いた子どもたち」(3月1日 鎌倉朝日)

「子どもへのまなざし ―清方が描いた子どもたち」(広報かまくら3月号)

出品作品

「砂浜少女」「清子四歳像」「しだれ桜」「絵燈籠」「比伊奈」「鍾馗」「孤児院」「姉様人形」「舞妓」「芍薬」
「牡丹 一」「美人と芍薬」「子供二人」「桜乙女」「二人静」「狐狗狸」

下絵 「雪旦」「稚児桜」「醍醐の花見」

スケッチ 「桜」「長女出生」「長女」「次女出生」「次女」「ままごと」「孫」「筍」「莓の花」「林檎の花」
「牡丹」

『文藝倶楽部』口絵	「鸚鵡」「花吹雪」「都鳥」
『新小説』口絵	「祝ひ月 東京風俗」「くもり日」「五日市」
『九州日報』付録	「醍醐の花見」
『お伽倶楽部』口絵	「しほかぜ」
『久留島お伽講壇』口絵	「五色の魂、耳から入れた鯉節、布衣貞吉、黄金の花野」(校正刷り)
『少女世界』口絵	「散歩」
『少女世界』附録	「少女出世双六」
『少女界』口絵	「花の蔭」「おしろ酒」「さみだれ」
『少女界』表紙	「葡萄」「観梅」
『少女界』附録	「少女修学旅行双六」(鏑木清方・富田秋香合作)
『少年界』口絵	「ボート、レース」「遠足」
『少年界』表紙	「桃の花」「第7巻第13号」
『少年界』附録	「少年成功双六」(鏑木清方・宮川春汀合作)
渡辺霞亭著作口絵	『渦巻』(中編)(後編)
小笠原白也著作口絵	『女教師』
巖谷小波関連	『鶯王子』表紙(書籍) 『鶯王子』挿絵(校合刷り) 『こがね丸』(書籍)
その他書籍	『南総里見八犬伝』『歌舞伎新報』